

パワー・コード&ペンタトニック・スケールで ウォーミング・アップ!

いろいろなコードの中で最もシンプルな構造を持つ“パワー・コード”、そしてコードやメロディーの基盤となるスケールの中でもベーシックな存在“ペンタトニック・スケール”を題材にしたウォーミング・アップ・フレーズを紹介しよう。

PART 1 パワー・コードでウォーミング・アップ

パワー・コードは、ルートと5度という2つの音だけで構成されるコードだ。そこではPART1で、パワー・コード

の仕組みとベーシックなフォームを覚え、ウォーム・アップ・フレーズを弾いてみよう。

パワー・コードとは?

「高さの違う2つ以上の音を同時に鳴らしたものが“コード”の定義だ。一般的なコードは、3個以上の音で作られ、コード・トーン(コードを構成する音)の数と高さによってコードの種類が決まる。

例えば「C」というコードは、C(ド)の音を“ルート”(コードの土台となる音)として、3度上のEと5度上のGの音を重ねて作られており、“メジャー・コード(a)”という種類に分類される。また、メジャー・コードの3度を半音低くしたコードが“マイナー・コード(b)”で、C音をルートとするとCm(Cマイナー)というコードになる。

このような3音構成のコードから3度を抜いた、ルートと5度のみのコードが“パワー・コード(c)”で、別名「5度コード」とか「3度抜きコード」などとも呼ばれる。3度音を含まないの

メジャー・コードとマイナー・コードのどちらとしても使え、しかも押さえ方が簡単なのがパワー・コードの長所。また、歪んだエレキギター

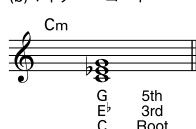
の低音域で弾いても音が二ゴらず綺麗にハモるので、ロック・ギターのバックには欠かせない素材として多用されている。

譜例1

(a)メジャー・コード



(b)マイナー・コード



(c)パワー・コード

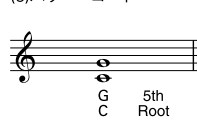
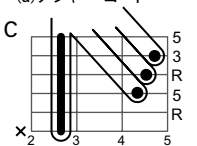
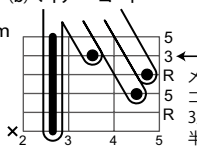


図1

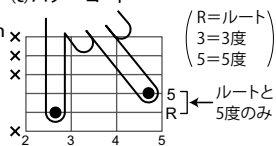
(a)メジャー・コード



(b)マイナー・コード



(c)パワー・コード



◎度数について

音程(音の高さの差)を示す数値が“度数”で、基準になる音を「1度」として、五線上で高さが離れるごとに「2度、3度、4度…」と数える。譜例2はC音を基準とする度数の例だ。半音を含むより正確な度数を示すときは、「完全・増・減・長・短」という記号をつけて表わす。

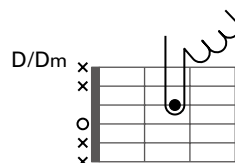
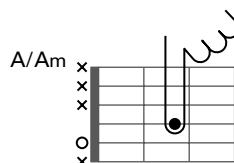
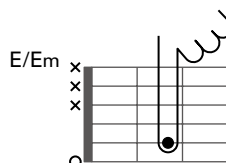
譜例2



開放弦ルートのパワー・コード

パワー・コードの基本構造と特徴を理解したら、まず開放弦をルートとする3種類のフォームを覚えよう。どれも5度の音の人差し指1本で押さえるだけでOK。ただし特にE以外のフォームは他の弦が鳴ってしまわないように要注意。A・Dのフォームはできるだけ親指で6弦をミュートしながら押さえよう。

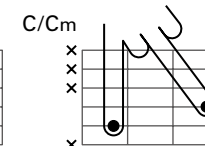
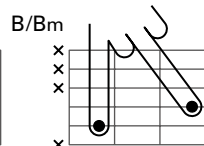
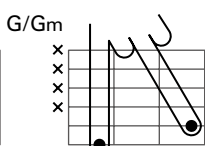
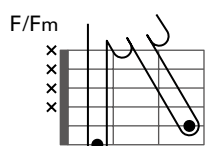
図2



押弦音ルートのパワー・コード

押弦音ルートのパワー・コードは、バレー・コードを押さえるときのように左手親指をネックの中央近くまで下げ、手のひらをネックから離れたフォームで、ルートを人差し指、5度を薬指または小指で押さえる。図3は5弦または6弦をルートとする主なフォーム例だ。5弦ルートの場合は人差し指の先で6弦をミュートしながら押さえよう。

図3



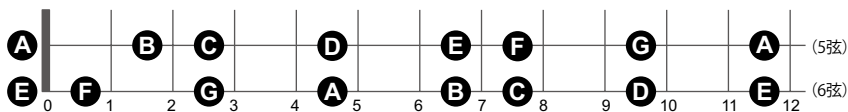
ルートの位置を覚えよう

パワー・コードに限らず、コード・ネームの最初のアルファベットはルートの音名を表わしている。図4は、5・6弦上で「CDEFGAB(ドレミファソラシ)」という音の位置を示したものだ。このような音の位置を覚えておくと、各音をルートとするパワー・コードを押さえる場所が見つけやすい。「E-F」と「B-C」は1フレット(半音)、それ以外の音は2フレット(全音)の間隔で並んでいることにも注目しよう。3・5・7フレットなどのポジション・マークと音

名をリンクづけて覚えるのもコツの1つだ。また、ルート音名に#がつくときは図の位置

より1フレット右(半音上)、bがつくときは1フレット左(半音下)がルート位置になる。

図4



パワー・コードのウォーミング・アップ・フレーズ

パワー・コードの構造と押さえ方を覚えたら、ウォーミング・アップ・フレーズを紹介しよう。EX-1から徐々に動きの激しい譜例になっているの

で、確実に弾けることを目標にしつつ、ゆっくりしたテンポからマスターしていき、毎日練習前などに活用して欲しい。

EX-1 ◆パワー・コードをダウン・ピッキングで刻む練習

E及びAコードを押さえ、ダウン・ピッキングで8分音符を刻む右手のトレーニング・フレーズ。BPM=160~180ぐらいのテンポで弾けるように練習しよう。

EX-2 ◆同弦上でのコード・チェンジ練習

5・6弦上で「CDEFGAB」という各音をルートとするコード・チェンジの練習。左手を素早く移動させて押さえ変えよう。

EX-3 ◆開放弦／押弦音ルートのコード・チェンジ練習

開放弦をルートとするEm・A・Dのパワー・コードと、押弦音をルートとする「G・B」のパワー・コードを押さえ変えながら弾く練習。左手はすべて親指

を下げたフォームで押さえよう。ピッキングする弦の変化にも注意しながら練習すること。

EX-4 ◆半音を含むコード・チェンジ練習

またはbがつく音をルートとするフォームを含めたコード・チェンジの練習。コード・ネームと押さえる場所を関連づけて覚えよう。

PART 2 ペンタトニック・スケールでウォーミング・アップ

続いて紹介するのが、曲のメロディーやギターのリード・フレーズ、バックイングのコード進行などの基盤となる音の集まり

である“スケール”だ。特にペンタトニック・スケールは最も基本的なスケールとも言えるなので、ぜひとも体得しよう！

スケールの基本構造と役割

スケールは日本語で「音階」と言って、「1オクターブの範囲で音を高さの順に並べたもの」と定義される。スケールの起点になる音を“トニック”と言って、この音の高さと、スケール・ノート(スケールの構成音)の数及び音程によってスケールの種類が決まる。

譜例3(a)は、Cの音をトニックとして「CDEFGAB(ドレミファソラシ)」という7音で構成される“Cメジャー・スケール”の例。このスケールは「C(メジャー)」というKeyを決定し、譜例3(b)のようなメロディーや、(c)のようなコードの基盤となる。

譜例3

(a)Cメジャー・スケール

音名→ C D E F G A B

(b)Cメジャー・スケール基盤のメロディー

音名→ G A B C D E D C

(c)Cメジャー・スケール基盤のコード

音名→ G A B C D E

マイナー・ペンタトニック・スケールを覚えよう

いろいろなスケールの中でも、ロックで最も重要な存在が、ロックの母体となったブルースのメロディー的基盤である“マイナー・ペンタトニック・スケール”だ。譜例4は譜例3で紹介したCメジャー・スケールから4度と7度を抜き、6度(A音)をトニックとして並べ換えた“Aマイナー・ペンタトニック・スケール”だ。AマイナーKey、及びAのブルースのメロディー的基盤となる。

譜例4

●Aマイナー・ペンタトニック・スケール

音名→ A C D E G

マイナー・ペンタトニック・スケールのポジション

フィンガー・ボード上のスケール・ポジションを覚えることが、スケール練習の第一歩だ。上で紹介している譜例4のAマイナー・ペンタトニック・スケールには、図5のような6

種類((a)と(e)はオクターブが違う同形のポジションなので実質的には5種類)のようなポジションがある。まず基本的なポジションである6弦トニック

の(c)、次に実際のプレイで多用される5弦トニックの(f)(と同形の(a))を覚え、それから他のポジションも一緒に覚えていくといいだろう。

図5

(a) 6弦トニック (b) 5弦トニック (c) 4弦トニック (d) 3弦トニック (e) 2弦トニック (f) 1弦トニック

(○=tonic)

★ ペンタトニック・スケールのウォーミング・アップ・フレーズ ★

ここからは、Aマイナー・ペンタトニック・スケールの各ポジションを上下行するウォーミング・アップ・フレーズを紹介し続けることにした。

各ポジションとも、トニックの位置を確かめながら練習することが上達への近道になるので、存分に活用して欲しい。

EX-5◆基本ポジションのトレーニング

図5(c)のポジション上のスケール・ノートを上下行するトレーニング・フレーズ。トニックのA音に帰結するメロディー感覚を確かめながら弾こう。

EX-6◆開放弦を含むポジションのトレーニング

図5(a)のポジションのトレーニング。開放弦の音が残ってしまわないように注意しよう。

EX-7◆6弦トニックのポジションのバリエーション

図5(b)のポジションの練習。3・4弦の運指を正確にすることが課題だ。

EX-8◆4弦トニックのポジションのトレーニング

図5(d)のポジションのトレーニング。各音の位置を正しく覚えよう。

EX-9◆5弦トニックのポジションのバリエーション

図5(e)のポジションのトレーニング。1～3弦の音の場所の変化に気をつけること。

EX10◆5弦トニックのポジションのバリエーション

図5(f)のポジションのトレーニング。図5(a)の1オクターブ上のポジションだ。